

平成29年度自動車整備士技能検定実技試験

〔二級自動車シャシ整備士〕

問題用紙

平成29年9月3日

受験番号	第	号	氏名	
------	---	---	----	--

〔注意事項〕

1. 受験番号及び氏名を該当欄に記入しなさい。
2. 問題の中には解答の記入を必要としているものもあります。解答の記入は問題用紙の該当欄に記入しなさい。ただし、**思考席では記入しないこと**。
3. 問題用紙の余白部分には自由に記載することができます。
4. 故障を設定している問題については、問題中に特段の指示がない限り、**重複故障はないもの**とします。
5. 試験終了後、この問題用紙を回収します。

〔不正行為等について〕

1. 携帯電話等の電子通信機器類は、試験会場に入る前に必ず電源を切って、カバン等に入れておくこと。
2. 試験時間中（試験会場内）において、携帯電話等の電子通信機器類を使用した場合は、不正行為があったものとみなし、当該試験を無効とする場合があります。
3. その他、試験員の指示に従って受験すること。

【問題 1】

ここにある前輪のディスク・ホイールについて、次の各問に答えなさい。

- 問 1 次の測定項目について測定器具を用いて測定し、測定結果を該当欄に記入しなさい。また、測定後に良否判定を行い、良否判定欄の良又は否をそれぞれ選んで○で囲みなさい。ただし、測定結果は小数点第 1 位まで記入しなさい。（小数点第 2 位以下は切捨て）

測定項目	測定結果	良否判定
(1) ディスク・ホイールの縦振れ量	最大 mm	良 ・ 否
(2) ディスク・ホイールの横振れ量	最大 mm	良 ・ 否

- 問 2 次の現象について、問 1 の測定結果をもとにして発生の有無欄の有又は無をそれぞれ選んで○で囲みなさい。ただし、タイヤ本体は正常とする。

現 象	発生の有無
(1) タイヤが偏摩耗する。	有 ・ 無
(2) 走行中にボデーが振動する。	有 ・ 無
(3) 走行中にステアリングが振動する。	有 ・ 無

【問題 2】

ここにあるブレーキチャンバーについて、次の各問に答えなさい。

- 問 1 サービスチャンバー部を分解し、下表の(1)～(4)の点検項目について良否判定を行いなさい。
その後、各部品の損傷有無と損傷箇所を採点員に報告して確認を受け、該当する判定結果欄の良又は否を○で囲みなさい。

点 検 項 目	判定結果
(1) ベースのプッシュロッドガイド摺動部の傷	良 ・ 否
(2) プッシュロッドガイドのブッシュ（外周）の損傷	良 ・ 否
(3) ダストカバーの亀裂・損傷	良 ・ 否
(4) ダイヤフラムの亀裂・損傷	良 ・ 否

- 問 2 問 1 の点検項目及び判定結果から考えられる現象として、適切なものを下記の中から一つ選び、その番号を○で囲みなさい。

1. ブレーキ力が不足する
2. ブレーキのひきずりが発生する。
3. 1. 及び 2. の現象は起きない。

【問題3】

ここにある自動車について、次の各問に答えなさい。

問1 次の(ア)から(ウ)の各点検項目について、点検方法として該当するものをそれぞれ選択肢①～⑦の中からすべて選び、点検方法欄にその数字を記入しなさい。ただし、同じ選択肢は2回使用できません。

点 検 項 目	点検方法
(ア) シフト・ロック作動点検	
(イ) キー・インタロック作動点検	
(ウ) リバース位置警報装置作動点検	

【選択肢】（点検方法）

- ① シフト・レバー位置が「N」「P」レンジのみでスタータが回転する。
 ② シフト・レバー位置が「R」レンジのときのみバックアップ・ランプが点灯する。
 ③ ブレーキ・ペダルを踏み込むと、「P」レンジから他のレンジへシフトできる。
 ④ シフト・レバーを「P」レンジ以外へシフトすると、イグニション・キーをハンドル・ロック位置に回せない。
 ⑤ シフト・レバーを「R」レンジにシフトしたとき、室内でブザーが鳴る。
 ⑥ シフト・レバーを「P」レンジへシフトすると、イグニション・キーをハンドル・ロック位置に回せる。
 ⑦ ブレーキ・ペダルを踏まずにシフト・レバーを操作すると、「P」レンジから他のレンジへシフトできない。
- ※車両の初期状態は、「P」レンジで、かつ、イグニション・スイッチがONの状態である。

問2 また、問1で選択した点検方法に従って実車でそれぞれの項目について点検を実施するとともにその良否判定を行い、点検結果欄の良又は否を○で囲みなさい。

点 検 項 目	点検結果
(ア) シフト・ロック作動点検	良 ・ 否
(イ) キー・インタロック作動点検	良 ・ 否
(ウ) リバース位置警報装置作動点検	良 ・ 否

問3 ここにある自動車から取り外したと仮定する机上のインヒビタ・スイッチにおいて、各レンジ位置でサーキット・テスタを用いて端子導通点検を実施し、測定値を該当欄に記入するとともにその良否判定を行い、点検結果欄の良又は否を○で囲みなさい。
 ただし、測定は、各レンジ位置の測定端子欄に掲げる端子間をそれぞれ測定することとし、測定値は小数点第1位まで記入すること。（小数点第2位以下は切捨て）

レンジ位置	測定端子	測定値	点検結果
P	端子3－端子2	Ω	良 ・ 否
R	端子3－端子9	Ω	良 ・ 否
N	端子3－端子8	Ω	良 ・ 否
D	端子3－端子5	Ω	良 ・ 否
L	端子3－端子1	Ω	良 ・ 否

問4 問1から問3の結果から考えられる状況を下記の中から一つ選び、その番号を○で囲みなさい。

- シフトレンジ位置が「D」レンジの状態、イグニション・キーを車外に持ち出せる。
- ブレーキペダルを踏まずに「P」レンジから他のレンジへの切り替えができる。
- 問1から問3の点検では、異常は見当たらない。